

三好大助

井戸

汲めども 汲めども
底をついた かなしみに
星たちはやさしい

ベランダから見下ろした
赤信号の 点滅に
鼓動をとかして

時間も乾いた
涸れ井戸のなか

注がれる沈黙の なつかしさに
安心して 透明でいられる

風

月明り

クラクション

鹿の産声

流星群

通過していくものたちと
響き合い
わたしはひとつのうたでした